東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

事業年度 2015年4月1日～2016年3月31日

FINANCIAL REPORT 2015'

〈 ダイジェスト版 〉

改革と創造を支える、より強固な財務基盤の構築を進めます

グローバル化が加速し、「地球社会」とも呼ぶべき新たな世界状況が生み出される中で、容易に解を見出せない問題が次々に出現しています。この不安定な世界情勢から、安定的で平穏な社会を構築するものは、人々の知恵をおいて他にありません。アジアの中心的な学術拠点として、また世界最先端の知的活動を担う場として、東京大学が人類の発展に貢献する責任はますます重みを増しています。

この責任を果たすため、本学は、基盤的教育、研究を支える財務基盤の構築を続けるとともに、本学が有する資源を最大限に活用し、成果を社会へ還元できるよう、経営体制の強化を進めてまいります。このFINANCIAL REPORT2015'により、皆様に本学の財務状況についての理解を深めていただくとともに、「知の協創の世界拠点」としての本学の活動にご参画をいただくことができれば、総長としてこれほどの喜びはございません。

東京大学総長　五神　真

COCOAR2

ARコンテンツで体感!! アプリをかざして映像体験。

この冊子では「COCOAR2」アプリと連動したAR（拡張現実）コンテンツを提供しています。
ARマークが付いている箇所をスキャンすると、関連動画を実際に体感することができます。

ARコンテンツの利用方法

01 右記のQRコードを読み取り、「COCOAR2」アプリをダウンロードしてください。

02 アプリを起動して東京大学運動会マスコット「イチ公」のイラスト・吹き出し部分をスキャンすると、動画コンテンツがご覧になれます。

2015年度　主要トピックス

宇宙線研究所長 梶田隆章教授ノーベル物理学賞受賞

2015年10月6日、本学の宇宙線研究所長梶田隆章教授がノーベル物理学賞を受賞することが決まりました。これは、ニュートリノが質量をもつことを示す「ニュートリノ振動」の発見という功績が認められたものです。

ノーベル賞受賞記者会見の様子

ノーベル賞受賞理由「ニュートリノ振動」とは…

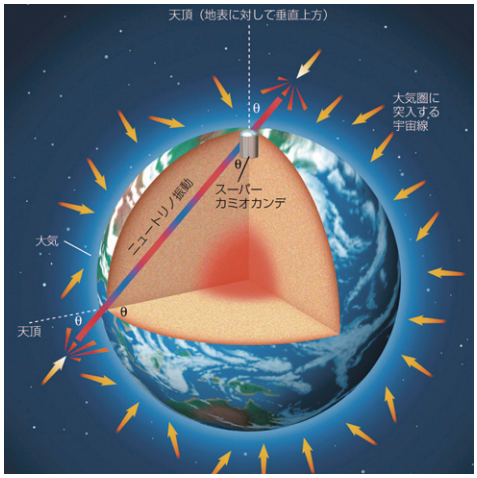
ニュートリノは素粒子の一種です。3種類あるニュートリノは非常に軽く、長い間その質量はゼロだと考えられていました。

1998年梶田教授らは大気ニュートリノの観測から、地球の裏側で作られて長い距離を飛んできたニュートリノの数が、検出器のすぐ真上から降ってくるニュートリノの数に比べて、約半分しかないことを発見しました。

これは、ニュートリノが飛んでいる間に別の種類のニュートリノに変身してしまう「ニュートリノ振動」という現象によるものでした。地球の裏側で生まれたミューニュートリノが地球内部を走っている間に、タウニュートリノに変身してしまったため、ミューニュートリノが減っているようにみえていたのです。

ニュートリノ振動は、ニュートリノに質量があるときだけ起こる現象です。したがって、ニュートリノ振動の発見は、ニュートリノがゼロでない質量を持つという決定的な証拠となったのです。

大気ニュートリノ振動の発見は素粒子理論の定説を超える新しい物理への扉を開きました。この成果が認められて今回のノーベル賞受賞となりました。



2015年度　主要トピックス

五神真総長就任

2015年4月1日、五神真先生が東京大学の第30代総長に就任しました。所信表明において、より強い東京大学とするために何をすべきか、またそのために運営や経営の在り方をどのように改良していくべきか等をまとめた骨子10項目が公表されました。

・世界的な視野で「多様性を活力とする協働」を牽引する
・学生の主体性を刺激する世界最高の学びの場を創る
・三つの基礎力を涵養し、他者理解と自己相対化の力を育む
・「国際卓越大学院教育プログラム」を創設し、「知のプロフェッショナル」を育成する
・知の協創の世界拠点となる
・現場との緊密な対話、責任と権限の明確化等を基軸とした運営改革を行う
・多様性を拡げつつ、東大の総合力を発揮する
・卓越した若手研究者のために、安定性と流動性を両立させる人事制度を実現する
・知の協創を支援するプロフェッショナルを育成しつつ、効果的な教職協働を実現する
・駒場・本郷・柏の三極間のネットワークを強化する

また、2015年10月には、五神総長の任期中における行動指針となる「東京大学ビジョン2020」を公表しました。

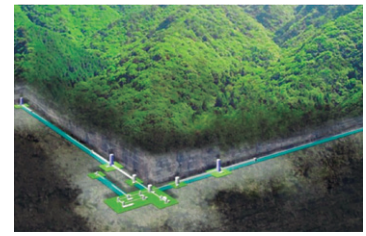
大型低温重力波望遠鏡施設（KAGRA）

本事業では、岐阜県飛騨市にある旧神岡鉱山の地下200m以深に、直線3kmのトンネルを直角方向に2本掘削し、そのトンネル内に重力波の検出装置を設置しました。

重力波とは、アインシュタイン博士の一般相対性理論から導き出される「時空の波」にたとえられる波動現象のことで、重力がもととなり発生する宇宙からの波動のことです。

宇宙線研究所ではKAGRA計画として、国内外60以上の大学・研究機関の協力のもと、連星中性子星の合体から発生する重力波を年1回以上の頻度で検出すること等により、国際観測ネットワークの一員として重力波天文学を創成することを目指しています。

現在は検出装置の目標感度を達成するため、装置の一部（鏡と鏡の懸架振り子）の冷却（絶対温度20度程度）を開始し、2017年度中の本格稼働を計画しています。



4学期制の導入及び初年次ゼミナール等の新たな教育プログラムを開始

東京大学では、教育の国際流動性の向上や主体的な学びの促進等の観点から、2015年度より4学期制を導入しました。例えば、これまでのセメスター制では参加することが困難だった海外の大学が実施するサマープログラム等についても、4学期制では学生がその期間のタームの授業を取らないことで参加することが可能になります。教員にとっても、あるタームに集中して授業を行い、次のタームで研究に専念することができるメリットがあります。

また、新たな教育プログラムとして、学部前期課程に初年次ゼミナールを導入しました。初年次ゼミナールは、「ティーチング（教え授ける）からラーニング（自ら学ぶ）への転換」を目指した1クラス20名程度の少人数によるチュートリアル方式の授業です。この初年次ゼミナールを入学直後の必修科目とすることにより、高校までの知識を習得する学びの姿勢から、自ら知を生み出す大学での能動的な学習への転換を図っています。

新・学内予算配分制度

法人化後12年が経過し、大学改革促進係数の影響や、人件費・建物維持管理費の増加等による義務的経費比率の増大等が顕著になり、学内予算構造が硬直化してきたため、貴重な安定財源である運営費交付金の有効活用や、本学のスケールメリットを活かした効率化などが喫緊の課題となってきました。また、「国立大学改革プラン」や「国立大学経営力戦略」等においても、トップマネジメントの必要性やIR（Institutional Research）に基づく学内資源再配分が必須とされました。こうした背景の下、制度見直しに着手しました。

新制度の主な内容は、配分を3段階にわけるとともに、全ての予算配分及び概算要求は、予算委員会の審議を経るという仕組を導入したことです。具体的には、第1次配分は、教育研究活動を支えるための必須部分として、第3期中期計画期間中、2015年度当初配分額の概ね7割を原則保証するものです。第2次・第3次配分は、新総長裁量経費と位置付け、「東京大学ビジョン2020」の実現に資する取組に重点的に予算配分を行うものであり、提案のあった全ての事業に対し、役員等出席の下、ヒアリング・評価を行います。これらを含めた全ての学内予算配分・概算要求については、総長、役員及び全科所長等が構成員となる予算委員会の審議を経ることとしており、従来の制度に比べ、より透明かつ公平に決定する仕組みとなっています。なお、新制度は2016年度予算配分から運用いたします。

★特別対談★古谷先生vsイチ公くん

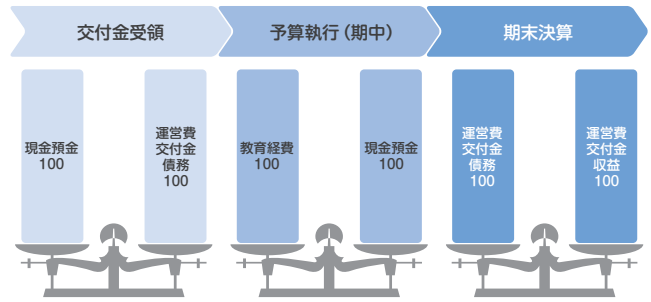
「東京大学の決算書ってどう読むの?」

2004年4月1日、国立大学に企業会計原則に基づいた国立大学法人会計基準が導入され、12年が経ちました。その間、86の国立大学と4つの大学共同利用機関で貸借対照表や損益計算書などの決算書が毎年作られ、公表されてきましたが、残念なことに、いまだ「国立大学の決算書はわかりづらい」と思われる方も多くいらっしゃいます。
そこで今回、東京大学運動会のマスコット「イチ公くん」がステイクホルダーの一員として財務担当理事の古谷研先生に東京大学の決算書を読むコツを教わりにきました。
さてさて、少々口下手なイチ公くん、無事先生に質問できたでしょうか?

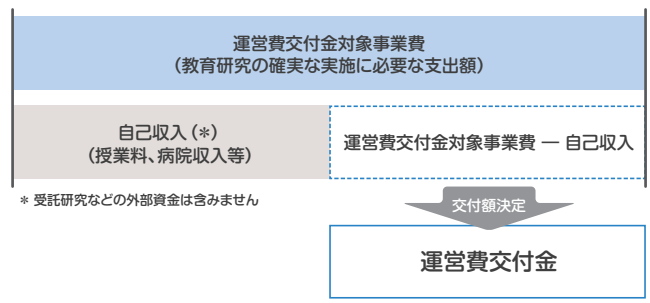
古谷先生の前でちょっと緊張気味のイチ公くん

イチ公　先生、こんにちはだワン!
古谷　おや、イチ公くん。珍しいね、どうしたんだい。
イチ公　今日は先生に東大の決算書について聞きにきたワン。
古谷　ええっ!?イチ公くんが決算書に興味を持ってくれたとは!それは嬉しいね。作っている財務部の人たちも、きっと喜ぶと思うよ。
イチ公　(モジモジしながら)あのー、実はHPで東大の決算書に利益は158億円って書いてあるのを見ちゃったワン。それで、運動会にも少しだけ融通してもらえないかと…その、お願いにきたんだワン。
古谷　ははは。そうかそうか、正直でいいね。確かに2015年度の決算では158億円の利益が出ているけれど、そのほとんどが決算前にすでに使っていたり、行き先が決まっているんだよ。ごめんね。
イチ公　(怪訝そうに)でも先生、企業では利益は決算後の株主総会で処分先を決めるはずだワン?この前TVニュースで見たワン。
古谷　企業は確かにそうだよ。でも、国立大学は企業と同じような決算報告を行うけれど、利益の中身はちょっと違うんだ。
イチ公　どういうことだワン?
古谷　うん、そもそも国立大学は2004年4月の法人化と同時に自ら進んで経営体としてやっていこう、そのためには的確に財政状況を把握する必要があると企業会計を導入したんだよ。でも、ほら、企業も環境への配慮や地域貢献といった活動も行っているけれど、やはり売上を伸ばして利益を上げ続けることが使命だろう?一方で国立大学の使命は6年間の中期目標・中期計画に書いてある教育・研究事業を行うことだ。これは国立大学法人法で定められている。そのための財源として国から「運営費交付金」という渡し切りの予算が毎年措置されている。このように、企業と国立大学法人では、制度も財務構造も異なるから、正しく実態を伝えるためには企業会計のルールを一部修正して、国立大学法人独自の会計ルール「国立大学法人会計基準」を作る必要があったんだよ。
イチ公　例えばどんなルールがあるワン?
古谷　うん、運営費交付金は大学の収入だけど、受け取るとまず収益ではなく負債に計上するとかかな。
イチ公　(びっくりして)負債?借金だワン!
古谷　あははは。負債と言っても借金じゃないよ。さっき、運営費交付金は中期目標・中期計画に書いてある教育・研究事業を行うためのお金といったよね。だからその約束を果たし終えるまでは収益ではなく負債に計上しておかなければならないんだよ。(資料①)
古谷　この運営費交付金には算定ルールがある。まず1年間の計画に沿った必要経費を算出する。次にその財源となる自己収入(授業料や病院収入、雑収入)を見積もる。その差額が運営費交付金。つまり、運営費交付金は収支差補てんなんだ。だから予算上も収支均衡、そして会計上も常に損益均衡

資料①　運営費交付金の会計処理



資料②　運営費交付金の算定方法



＊受託研究などの外部資金は含みません

の仕組みが取られているんだよ。(資料②)

イチ公　損益均衡…(考え込む)。

古谷　それから、そうだな。イチ公くん、君が今いる安田講堂は法人化の前からあるよね?

イチ公　(誇らしげに)1925年(大正14年)に創建したんだワン。内田祥三先生の設計だワン。

古谷　ほほー、よく知ってるね。そう、この安田講堂も含めて2004年の法人化の時に国は大学が教育、研究をすぐにスタートできるよう国の財産だった土地や建物を大学に現物出資したんだよ。そして、これら建物を維持するための財源を国は補助金として交付する仕組みになっている。国立大学には教育、研究を継続させる使命があるからね。といっても、実際には税財源も厳しいから満足にはもらえていないんだよ。

これらの資産の減価償却費、そう固定資産の価値の減少相当額だけど、通常は損益計算書の費用に含まれるけれど、このような国からもらった資産の更新では、大学の責任の範疇外として大学の損益計算書の外、つまり貸借対照表の純資産の控除科目「損益外減価償却累計額」として加算していくんだよ。(資料③)

資料③　損益に影響しない会計処理

イチ公　そっ、そんえきがいげんか…?う〜ん、う〜ん、難しいワン…。

古谷　要するに、損益計算書は大学の運営状況を適切に表すための報告書だから、大学に責任のないものまで載せないよ、とまあそういうことだ。

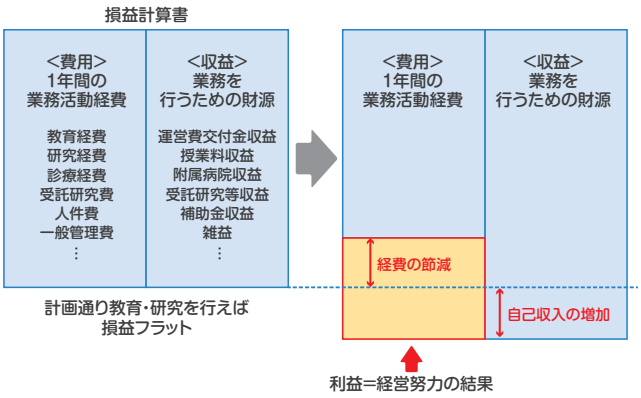
イチ公　なるほどだワン!でも、先生。損益均衡の東京大学でなぜ158億円の利益を出したワン?

古谷　ほんとだ。不思議だよね。なぜだろう?損益計算書を見てご覧。ほら、この158億円には二つの利益「経常利益」「臨時利益」から成り立っているよね。2015年度の臨時利益は92億円。そのうちの89億円が運営費交付金収益だ。これは中期目標期間最終年度ならではの会計処理が要因だ。最後まで残った運営費交付金債務は国との間で精算して、一旦利益に計上するんだよ。一方もう一つの「経常利益」なんだけど、普通、企業の利益は収益額に対して費用をどれだけかけたかに基づくから、経営成績と言っているよ。

イチ公　国立大学は違うワン?

古谷　うん。国立大学は経営成績ではなく、「経営努力の結果」を表すんだ。損益計算書の費用は東京大学の1年間の活動経費、収益は業務を行うための財源だ。利益はそれぞれの計

資料④　国立大学法人の利益



画との差だ。計画通り行うべきことを行えば費用と収益は均衡して差額は発生しない。でも、例えば大学が頑張って当初の計画より経費を節約した、自己収入をより稼いだという場合には差ができる。だから生まれる利益は「1年間頑張った結果」、つまり経営努力の結果を表しているんだよ。(資料④)

イチ公　なるほど、わかったワン!

古谷　ただ、出てきた結果がすべて翌年度に繰り越して使えるというわけではない。財務大臣に協議をして、文部科学大臣から承認をもらう必要がある。今回は、先ほど説明した精算した運営費交付金収益分を含めると、出資事業や図書館の建築費といった継続事業もあれば、五神総長の『東京大学ビジョン2020』を実現するための新規事業の繰り越しもある。ちなみに東京大学の利益の中にはすでに借金の返済に充てているものも含まれているんだよ。

イチ公　(目を白黒させて)???

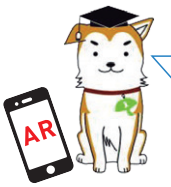
古谷　ほら、うちには附属病院があるだろう?病院は建物や診療機器を借金して買っている。だから病院が一生懸命収入をあげても、その返済をすると手元にほとんど現金は残らないんだ。残らないだけではない。今は消費増税や診療報酬改定で非常に厳しい状況だ。2015年度は現金収支上、なんと24億円の赤字だよ。これは東京大学だけではない。全国の国立大学病院みんなが抱えている課題なんだよ。

イチ公　そっそれは大変だワン!(シュンとしてつぶやくように)…それなら、運動会への寄附…どころではないワン…。

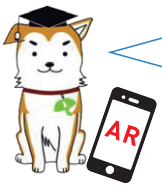
古谷　うん、まあ、残念だけどそういうことだな。でも、寄附はできないけれど、僕たち教職員は君たち運動会をいつも応援しているよ。今年は東大が七大戦の主管校で優勝したんだろう?おつかれさま、これからも頑張りたまえ!

イチ公　(気を取り直して元気よく)頑張るワン!古谷先生、今日は教えていただいてありがとうだワン!

その1　損益均衡



その2　大学の利益



財務諸表の要約

貸借対照表

（単位：百万円、単位未満切り捨て）

資産の部			
科目	2015年度	増減（前年比較）	
Ⅰ.固定資産	**1,259,710**	**8,031**	
土地	888,538	△ 153	①
減損損失累計額	△ 3,065	0	
建物	349,208	14,119	②
減価償却累計額	△ 147,613	△ 12,194	
減損損失累計額	△ 264	-	
構築物	32,114	6,545	③
減価償却累計額	△ 13,610	△ 962	
減損損失累計額	△ 2	-	
工具器具備品	219,138	12,829	④
減価償却累計額	△ 167,851	△ 18,588	
図書	43,692	283	
美術品・収蔵品	3,103	0	
建設仮勘定	23,975	5,979	⑤
特許権	683	△ 69	
借地権	491	-	
ソフトウェア	541	204	
投資有価証券	29,527	35	
その他	1,102	1	
Ⅱ.流動資産	**136,464**	**△ 5,717**	
現金及び預金	111,062	17,152	⑥
未収学生納付金収入	195	11	
未収附属病院収入	8,941	110	
徴収不能引当金	△ 538	△ 5	
未収入金	6,496	△ 2,576	
有価証券	8,975	△ 20,090	⑥
医薬品及び診療材料	827	△ 262	
その他	503	△ 57	
資産合計	**1,396,174**	**2,314**	

貸借対照表とは、決算日(3月31日)における資産、負債、純資産の状況を記載することで、財政状態を明らかにするものです。

負債の部			
科目	2015年度	増減（前年比較）	
Ⅰ.固定負債	**167,873**	**6,384**	
資産見返負債	122,295	254	
借入金	29,077	△ 23	⑦
長期未払金	15,187	6,413	⑧
その他	1,312	△ 260	
Ⅱ.流動負債	**103,948**	**△ 16,640**	
運営費交付金債務	-	△ 16,527	⑨
寄附金債務	44,966	1,971	⑩
前受受託研究費等	6,511	△ 661	
一年内返済予定借入金	4,212	△ 208	
未払金	44,351	135	
その他	3,907	△ 1,350	
負債合計	**271,821**	**△ 10,255**	

純資産の部			
科目	2015年度	増減（前年比較）	
Ⅰ.資本金	**1,045,247**	**0**	
政府出資金	1,045,247	0	
Ⅱ.資本剰余金	**15,903**	**△ 3,302**	
資本剰余金	137,763	6,371	⑪
損益外減価償却累計額（－）	△ 132,480	△ 9,651	
損益外減損損失累計額（－）	△ 3,342	0	
その他	13,963	△ 23	
Ⅲ.利益剰余金	**62,188**	**15,381**	
前中期目標期間繰越積立金	21,630	-	
教育研究・組織運営改善積立金	526	△ 508	
積立金	24,141	3,550	
当期未処分利益	15,890	12,340	
Ⅳ.その他有価証券評価差額金	**1,013**	**491**	
純資産合計	**1,124,353**	**12,569**	
負債純資産合計	**1,396,174**	**2,314**	

主な増減内容

①柏キャンパス北東側用地を取得したものの、生産技術研究所千葉実験所及び北海道演習林の一部等を譲渡したことによる減少。
②クリニカルリサーチセンターA棟、分子ライフイノベーション棟の竣工、教養学部6号館の改修等による増加。
③大型低温重力波望遠鏡施設（KAGRA）その他附属設備の竣工等による増加。
④研究用設備等の取得による増加。
⑤クリニカルリサーチセンターA棟、大型低温重力波望遠鏡施設等が完成したものの、医学部附属病院病棟（Ⅱ期）及びアカデミックコモンズ等の着工が開始されたことによる増加。
⑥譲渡性預金（有価証券）から定期預金（現金及び預金）への運用変更による増減。

分子ライフイノベーション棟
中村研究室（総括プロジェクト機構）

©Takumi Ota

⑦国立大学財務・経営センターからの借入金の償還が新規借入を上回ったことによる減少。
⑧クリニカルリサーチセンターA棟整備事業の開始等による長期PFI債務の増加及びスーパーコンピューターシステム（物性研究所）のリース開始等による長期リース債務の増加。

クリニカルリサーチセンターA棟
東研究室（医学系研究科）

⑨事業の完了及び第2期中期目標期間終了による精算のための取崩による減少。
⑩寄附金の繰越による増加。
⑪施設費、目的積立金を財源に固定資産を取得したことによる増加。
・クリニカルリサーチセンターA棟竣工
・大型低温重力波望遠鏡施設竣工
・教養学部6号館改修
・農学部6号館改修

その3 貸借対照表

損益計算書

（単位：百万円、単位未満切り捨て）

科目	2015年度	増減（前年比較）	
経常費用			
業務費	222,251	961	
教育経費	13,701	△ 1,051	
研究経費	44,347	2,159	⑫
診療経費	29,933	△ 430	⑬
教育研究支援経費	2,647	84	
受託研究費等	35,849	355	
人件費	95,772	△ 156	⑭
一般管理費	5,849	△ 444	
財務費用	735	△ 148	
支払利息	735	△ 135	
為替差損	-	△ 12	
雑損	287	11	
経常費用合計	**229,124**	**379**	
経常収益			
運営費交付金収益	78,264	△ 2,540	⑮
学生納付金収益	16,269	3,340	⑮
附属病院収益	46,978	566	⑯
受託研究等収益	43,567	21	
研究関連収益	5,143	△ 404	
寄附金収益	7,917	406	
補助金等収益	13,022	△ 568	
その他	24,623	1,482	
経常収益合計	**235,788**	**2,303**	
経常利益	**6,663**	**1,924**	
臨時損失	**370**	**△ 1,558**	
臨時利益	**9,279**	**8,566**	⑰
当期純利益	**15,572**	**12,049**	
目的積立金取崩額	**318**	**290**	
当期総利益	**15,890**	**12,340**	

損益計算書とは、1事業年度(4月1日から翌年3月31日)における運営状況を明らかにするものです。

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円、単位未満切り捨て）

科目	2015年度	増減（前年比較）
Ⅰ.業務活動によるキャッシュ・フロー		
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 88,922	△ 609
人件費支出	△ 103,083	△ 2,193
その他の業務支出	△ 5,533	△ 888
運営費交付金収入	81,507	△ 505
学生納付金収入	14,784	0
附属病院収入	46,851	572
受託研究等収入	44,384	40
補助金等収入	15,533	△ 1,791
寄附金収入	9,383	441
その他収入	9,905	293
業務活動によるキャッシュ・フロー	**24,810**	**△ 4,640**
Ⅱ.投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 72,504	△ 20,388
有価証券の売却による収入	93,189	62,765
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△ 32,070	△ 1,461
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	448	△ 1,950
定期預金等への支出	△ 219,900	5,100
定期預金等の払戻による収入	197,900	△ 45,100
施設費による収入	8,488	△ 6,690
施設費の精算による返還金の支出	△ 56	△ 56
その他の投資支出	△ 90	△ 90
小計	**△ 24,595**	**△ 7,872**
利息及び配当金の受取額	535	△ 109
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 24,060**	**△ 7,981**
Ⅲ.財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	4,188	3,401
長期借入金の返済による支出	△ 844	50
リース債務の返済による支出	△ 3,688	656
その他の財務支出	△ 942	△ 14
国立大学財務・経営センター債務負担金の返済による支出	△ 3,575	73
小計	**△ 4,862**	**4,166**
利息の支払額	△ 734	151
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 5,597**	**4,318**
Ⅴ.資金増加額（又は減少額）	**△ 4,847**	**△ 8,304**
Ⅵ.資金期首残高	**70,910**	**3,457**
Ⅶ.資金期末残高	**66,062**	**△ 4,847**

キャッシュ・フロー計算書とは、1事業年度(4月1日から翌年3月31日)における活動を業務活動・投資活動・財務活動の3つの区分に分けて、資金の流れを明らかにするものです。

本学は、業務活動で獲得した資金を同活動の他、施設・設備投資や借入金返済にも充てている資金状態が見えます。

⑫大型低温重力波望遠鏡の稼働開始による減価償却費の増、医療研究開発推進事業費補助金採択による備品費等の増による増加。
⑬医学部附属病院の省エネルギー対策による水道光熱費の節減等による減少。
⑭教員への退職手当等の減が職員の給与の増を上回ったことによる減少。
⑮運営費交付金及び授業料の使途（固定資産の購入財源）について、学内規定を見直したことによる運営費交付金収益の減少及び学生納付金収益の増加。
⑯医学部附属病院の稼働額増加の取組等による増加。
⑰第2期中期目標期間終了による精算のための会計処理による増加。

その4 損益計算書

東京大学基金の取組み

東京大学基金とは

東京大学基金は本学をご支援くださる皆様からの寄附金により構成される本学の重要な財産の一つです。

基金はその目的や管理方法により以下の通り区分されます。

1：基金のコアとして積立・運用・活用するための寄附金（非目的指定）
2：特定の目的遂行のための寄附金（目的指定）

本学ではこの二つを併せて東京大学基金と称しています。

我が国の財政状況が厳しい中、国立大学法人も財源の多様化が求められており、東京大学基金の強化は今後ますます重要となります。

基金現在額
11,043,102,820円

寄附申込総額
35,383,156,585円

寄附申込総件数
88,489件

（2016年3月末現在）

基金の推移

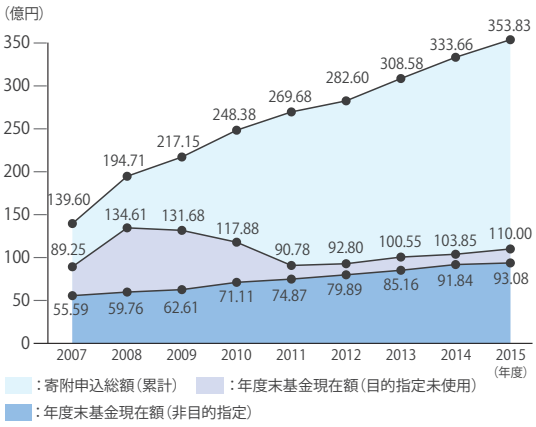
東京大学基金は、国立大学が法人化された2004年度に、本学の財政基盤を長期的に支えることを目的として設立されました。

これまでの活動を通して、累計で約353億円のご寄附申込みをいただきました。

基金の現在高は、約110億円（非目的約93億円、目的指定未使用額約17億円）となっており、年間約1億円の運用益を本学の教育研究活動に活用しています。

運営費交付金を例にとると、法人化された2004年度を基準にした場合、その後10年間の累計で約670億円が減額されている状況です。

単純な比較はできませんが、運営費交付金の減額に対して、基金に集まった353億円という寄附金は大学運営において重要な役割を果たしています。



海外有力大学との「基金」規模の比較

海外の有力大学では寄附金から構成される基金の運用益が重要な財源となっています。

安定的な財源を確保することは強い競争力を持つことにつながりますが、本学の基金は海外の有力大学と比較するとまだ小さな規模にとどまっています。

大学名	基金の規模(億円)
ハーバード大学	40,093※1
イエール大学	28,129※1
プリンストン大学	24,995※1
ケンブリッジ大学	9,424※2
オックスフォード大学	6,793※2
東京大学	110※3

※1:1ドル＝110円（2015年実績）
※2:1ポンド＝160円（2014年実績）
※3:東大基金（2015年度末現在）

渉外・基金課調べ

東京大学基金の活動

2015事業年度は個人や法人の方々から約20億円のご寄附申込みをいただきました。

内訳
- **新たに約3.6億円を基金に積み立てました。**
- **目的指定されたご寄附を以下の通り受入れ、活用しています。**

教育・研究支援（カブリIPMU支援等）	奨学金等（さつき会奨学金基金等）	キャンパス整備等（安田講堂改修等）	その他（スポーツ振興基金等）
約10億円	約4.6億円	約0.6億円	約1.2億円

2016年3月25日卒業式。皆様からの温かなご支援もいただき安田講堂改修工事は無事完了し、2016年3月をもちまして寄附募集を終了いたしました。

ご支援のお願い

東京大学基金は、①奨学制度の充実、②教育・研究支援、③キャンパス環境整備などを推進するために設けられた基金です。

教育・研究活動で対応の急がれるプロジェクトに対する寄附募集活動と基金（エンダウメント）の積み立てを並行的に展開しています。

東京大学は、寄附活動を媒介として、社会と大学のコミュニケーションを深め、大学の社会貢献活動を促進していきます。

東京大学基金へのご理解・ご支援よろしくお願いします。

東京大学基金
http://utf.u-tokyo.ac.jp/

東京大学基金2015年度活動報告書
http://utf.u-tokyo.ac.jp/result/pdf/result_2015.pdf

発行：東京大学　編集：東京大学財務部決算課　〒113-8654　東京都文京区本郷7-3-1　TEL：03-5841-2130　http://www.u-tokyo.ac.jp　発行年月：2016年10月